

みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日

聴覚障害者等災害時安否確認システム

県内の聴覚障害者及び情報支援者を対象として、現在、聴覚障害者 84 人、情報支援者 62 人のあわせて 146 人が登録されています。(9 月 6 日現在)

試験用のサーバーでセンター職員間でのテスト・調整を行った上で、本番用のサーバーへ全データを移行し、9 月 8 日に登録者すべてを対象としてテスト送信を行いました。

登録者の中には迷惑メール対策のため、知らないアドレスやパソコンからのメールを受信拒否されている方もいて約 30 名の方が受信できていない状況にあります。このため次のような処置をしてください。

《安否確認システムに登録されている方へ(お願い)》

このシステムは専用のメールアドレスを使用しています。下記アドレスからのメールを受信できるように設定してください。「安否確認システムのアドレス」anpi@saga-mimisapo-anpi.jp
なお、このアドレスは送信専用です。お問い合わせは、サポートセンターのアドレスをお願いします。「サポートセンターのアドレス」info@saga-mimisapo.jp
いつ起こるか分からない災害。備えのひとつとして安否確認システムにご登録ください。



パソコン要約筆記者養成講座

今回は、経験者、教師、学生、手話受講者、手書きを見て感動して参加された等、さまざまな人が忙しい中、時間を作って学びに来られています。それぞれの人にとって有意義な講座になるよう進めていきたいと思えます。(9 月 2 日)



原子力防災訓練実施

9 月 3 日(日)～4 日(月)

国と合同、初めてビブス(ゼッケン)着用

今年のはじめて国との合同訓練として実施されました。訓練は佐賀県北部で地震発生、玄海原子力発電所 4 号機の原子炉冷却材漏えいが発生したため原子炉を可動停止したとの想定です。

原子力発電所で緊急事態が発生した場合は避難がすぐ必要な 3～5 km、続いて避難が必要な 30 km 圏に合わせて約 900 人の身体障害者手帳を所持している聴覚障害者が玄海町、唐津市、伊万里市に居住され、そのうち約 700 人は 65 歳以上と高齢化が著しくなっています。

このため、昨年に続き伊万里市と唐津市の住民避難訓練にろう者が参加しました。伊万里市は大川内・山代地区から武雄市東川登公民館へ 51 人、唐津市は原地区からみやき町中原庁舎へ 40 人、手話通訳者を含めビブス(ゼッケン)をつけて訓練を行いました。中原庁舎には神埼と吉野ヶ里の手話サークルから 20 人が参加、避難所における情報支援にあたりました。ビブス(ゼッケン)はろう者、手話通訳と示してあり見分けやすいとの評価がありました。

手話



手話通訳者現任研修会

2 回目(全 4 回)8 月 26 日に開催しました。前年度に引き続き、近藤龍治氏(香川県 西讃ふくろうセンター施設代表者)を講師に迎えろう者が理解することを第一に手話表現の工夫について学習を深めました。

手話通訳者養成講座(通訳Ⅲ課程)

8 月 27 日開講しました。今年 1 月に発行された通訳Ⅲ新テキストを使用しての初めての講座。平成 30 年 2 月まで、事例検討、現場演習の実践学習に取り組まれます。

オーダーメイド訓練 手話講習会 (8 月～10 月)

ホテル龍登園職員に手話でのコミュニケーションを目指し実践形式の手話を全 8 回指導しています。



シリーズ補聴器「聴こえ」は私たちの願いです。

こんにちは、池田補聴器佐賀店の原田恒一です。
 スターキー（メーカー）直営の店で、耳穴・耳掛式補聴器等の試聴貸出しをしております。当店で扱った事例を3回シリーズで紹介します。

【事例 A 70歳代女性】

20年前ぐらいより左右共に聴こえが悪くなられ、**長年、集音器を両耳に使用**されていた方からご相談頂きました。

聴力測定後補聴器調整を実施。両耳試聴「テレビ・会話」等で確認して頂きました。結果テレビの音量が下がりましたが、生活音は大きくなりました。このため補聴器の機能の一つである雑音抑制機能や脳が生活音に慣れる期間について説明を行うと納得され気持ち的にも楽になりました。1か月で2回程の調整を行い、徐々に音入れの音量を上げていきました。また装用時間も2、3時間から始め3週間後には約8時間装用可能となりました。

今では、長い間続けてきた趣味の踊りも、今まで以上に楽しくなられ、気持ちも明るくなったと笑顔でお話をされていました。

【事例 B 50歳代男性】

補聴器を装用しているが、騒音がうるさく感じるとの訴えを頂きました。

聴力測定後再調整を実施しました。「会話」は聴こえるが響きが取れないとのことでした。このためチューブをスマートイヤチューブに変更を行い確認頂き響きがなくなり、装用も楽になるとともに聴こえも改善されました。今では会話も楽しくなったと教えて頂きました。

池田補聴器（株）佐賀店
 原田恒一

平成29年開催『佐賀インターナショナルバルーンフェスタ』終了までの佐賀県内で撮影した写真

応募締切：平成29年11月30日
 表彰：優秀作品には佐賀牛などの県産品

最近、以前より聴こえにくいと感じませんか？
 「難聴が認知症のリスクになるって本当ですか？」という質問をよく耳にするようになりました。広島大学宇宙再生医療センターでの、最新の脳と聴覚の研究結果を元に「日常におけるコミュニケーションと良い音に触れることの大切さ」を、気になる脳の仕組みや、聴覚と脳の関係などを交えながら、わかりやすくご説明致します。聴こえにお悩みのご本人はもちろん、ご家族の聴こえでお悩みの方もお気軽にご参加ください。

講師 中石 真一 路
 Shinjiro Nakaishi
 広島大学 大学院医療系看護学専攻 保健学専攻 生体環境応用科学専攻 研究生
 広島大学 宇宙再生医療センター 研究員
 ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社 代表

難聴と認知症における
 音声コミュニケーションの重要性
 -最新のコミュニケーション支援技術に触れる-

日程 2017年10月20日
 時間 13:30~15:00 (90分(休憩-60分))
 会場 佐賀県聴覚障害者サポートセンター (佐賀商工ビル4階)

参加費 無料

※聴こえにくい状態が続くと、必ずしも認知症を発症するわけではありません。

と き：10月20日（金） 13：30～15：00
 テーマ：『難聴と認知症における
 音声コミュニケーションの重要性』
 会 場：佐賀県聴覚障害者サポートセンター
 申込先：TEL0952-40-7700 FAX0952-40-7705
 参加料：無料 ※ 要予約
 ※文字通訳、赤外線による情報保障があります。

- ◇ろう者向け日曜教室 9月24日（日）「からす問題」10時～12時 佐賀県総合福祉センター集会室
- ◇医師相談 9月30日（土）10時～12時 お1人30分 ※要予約
- ◇社会参加促進事業 10月2日（月）ダイハツ九州、紅乙女、大刀洗平和記念館 ※要予約
- ◇防災講習会 10月13日（金）13時～15時宮城県聴覚障害者情報センター庄子施設事業課長講演会

編集後記：涼しくなりました。秋のセンター行事は盛りだくさんです。

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12（佐賀商工ビル4階）
 TEL：0952-40-7700 FAX：0952-40-7705
 メールアドレス：info@saga-mimisapo.jp
 ホームページアドレス：http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>
 9：30～18：00
 9：30～20：00(水曜)
 <閉館日>
 毎週月曜日、祝日、年末年始